

平成 22 年度太平山観光開発株式会社決算報告書

1 総括事項

- (1) 名称 太平山観光開発株式会社
- (2) 設立年月日 昭和 43 年 8 月 28 日
- (3) 資本金 金 464,000,000 円
- (4) 市の出資額 金 235,100,000 円
- (5) 役員の名
- | | |
|---------|--------|
| 代表取締役社長 | 木内 鑛生 |
| 取締役 | 渡邊 靖彦 |
| 〃 | 小玉 康延 |
| 〃 | 佐々木 安永 |
| 〃 | 伊藤 幸治 |
| 〃 | 佐藤 武義 |
| 〃 | 齊藤 孫市 |
| 監査役 | 須藤 二郎 |
| 〃 | 藤井 明 |

(平成 23 年 6 月 1 日現在)

(6) 事業の概要

太平山観光開発株式会社は、昭和43年8月、太平山地域一帯の観光開発を目的として、秋田市観光協会役員が発起人となり、秋田市からも出資を受けて株式会社として発足しました。

平成元年3月、当社は太平山リゾートパーク整備事業を推進する第三セクターとして、資本の充実と組織の強化を図るため新体制を発足させ、平成3年8月に「クアドーム ザ・ブーン」、平成4年12月に「太平山スキー場 オーパス」をオープンし、平成6年8月の「テニスの森」、「オートキャンプ場」のオープンに伴い、秋田市からその業務を受託するとともに、平成8年度からは、太平山リゾート公園内各施設の管理を受託しております。

平成9年4月には、秋田市がクアドームに「展望風呂付大広間」を増設、リゾート公園内に「トレーラーハウス」を新設し、引き続きその管理運営を受託し、さらに平成10年4月には、「秋田市森林学習館 木こりの宿」の管理運営を受託しました。

平成11年4月からは、クアドーム等のリゾート公園施設の運営形態が公設公営となり、施設の管理運営と維持管理業務を行う受託事業部門と料飲・物販等を行う自主事業部門を運営していくこととなりました。また、同年、秋田市が「新オートキャンプ場」を新設したことに伴い、その管理運営を受託しております。

平成12年4月から「花公園」エントランス広場の一部の維持管理を受託し、平成15年4月からは、「太平山グラウンド・ゴルフ場」の維持管理と管理運営を受託しました。

平成18年4月から地方自治法の一部改正に伴い、指定管理者制度へ移行となり、当社は指定管理者としてリゾート公園ならびに各施設の維持管理と管理運営を行っております。

なお、当社は定款第2条の規定に基づき、次の事業を行うことができます。

- ① 旅客索道事業
- ② 温泉供給事業
- ③ 太平山リゾートパーク内の造園事業
- ④ 都市公園等受託管理業務
- ⑤ 不動産分譲賃貸事業
- ⑥ 観光施設、体育施設の経営
- ⑦ 旅館、飲食店、売店などのサービス事業
- ⑧ 前各号に附帯する一切の事業

2 平成22年度事業実績と決算の状況

(1) 事業実績

【概況】

当期の県内経済状況は、製造業において輸送機械並びに精密機械関連等一部持ち直しの動きが見られたものの、建設業、小売業およびサービス業は、依然として厳しい状況が続きました。

また、3月11日に発生した東日本大震災により、太平洋岸の多数の発電所に大きな被害が生じたことから、節電・省エネ対応を余儀なくされ、経済活動に大きな影響を与えることとなりました。

このような状況のもと、当期4月から2月までの施設利用者数、営業収入および収益状況は、当年計画値を上回り、概ね順調に推移しておりました。

しかし、震災の影響により、停電のため、施設の利用休止を余儀なくされ、また通電後においても電気、ガス等の使用の自粛が要請されたことから、必要最小限の施設運営を行った結果、施設利用者数、営業収入および収益状況は、当初計画値を下回ることとなりました。

震災による営業収入の減収に伴う減益を防ぐため、節電・省エネ対応営業を中心に管理経費の節減を積極的に推進するなど企業努力を重ねてまいりましたが、指定管理業務の一部が実施出来なかったことによる指定管理料の減額並びに燃料価格の高騰等により、減益を避けられない状況でありました。

【営業の成果】

太平山リゾート公園施設全体の利用者数は、330,236人であり、計画比98.6%、4,564人減少となりました。(前年度利用者数：335,707人 前年比98.4%、5,471人減少)

会社全体の売上高については、552,297千円であり、計画比98.3%、9,629千円の減少となりました。(前年度売上高：559,153千円 前年比98.8%、6,856千円減少)

また、経常利益については、17,655千円であり、計画比75.2%、5,831千円減少する結果となっております。(前年度経常利益：28,397千円、10,742千円減少)

税引後の当期純利益は、9,554千円となり、計画比75.3%、3,132千円減少することとなりました。(前年度当期純利益：14,493千円、4,939千円減少)

各事業部門別の概要は次のとおりです。

① クアドーム事業部門

クアドーム施設の利用者数は、221,766人で前年比101.9%、4,041人の増加となりました。

施設利用者数が前年を上回った理由は、毎月計画的に催事を開催すると共に各種団体や法人を対象に保養所契約の推進、さらには地域・期間限定割引チラシを県内および近県の小学校に配布するなど団体利用並びに一般利用の利用促進を図ったことによるものです。

また、太平山自然体験学習事業「キッズクラブ」は、参加家族に好評を得ており、観賞用稲や古代米の田植えから収穫体験、天体観測会、自然観察会などを実施しました。

太平山周辺の活性化を目的として太平山登山や自然体験、ウォーキング、市民手作り公園の整備などを行い、太平山の自然とリゾート公園施設の魅力を広くPR致しました。

② スキー場事業部門

スキー場施設の利用者数は、43,396人で前年比100.2%、75人の増加となりました。

施設利用者数が前年を上回った理由は、積雪不足により前年より営業期間が短縮となったものの、今季新たに「わく☆わくランド」を開設したことや「雪上宝探し」や「親子そりレース」など各種イベントを開催し、集客に努めたことによるものです。

スキー人口の底辺拡大を目的に太平山自然学習センター「まんたらめ」と連携し、市内小中学校主催のスキー教室の受入やスキー、スノーボード無料体験レッスンを開催するなどスポーツ振興、教育活動にも寄与致しました。

③ 公園事業部門

グラウンド・ゴルフ場やトレーラーハウスなど公園施設の利用者数は、39,689人で前年比84.9%、7,067人の減少となりました。

施設利用者数が前年を下回った理由は、グラウンド・ゴルフ場の芝生維持管理のため、月2回休場日を設けたことによる利用者数の減少並びに震災の影響により、宿泊施設の予約キャンセルが相次いだことなどによるものです。

6月と11月の2回、「太平山リゾート公園杯グラウンド・ゴルフ大会」を開催し、施設のPRと利用促進を図っております。また、当社支援団体である「なんかヤッペーの会」による「市民手作り公園」の整備も進み、「キッズクラブ」参加者と合同で観賞用稲や古代米の田

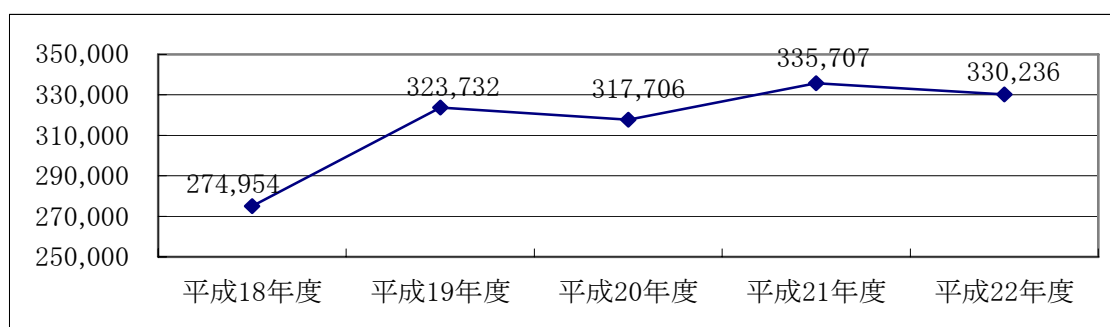
植えから収穫、花植え体験なども実施しました。さらに行政が推進する緊急雇用対策事業を積極的に獲得推進し、自主事業収入の向上に努めました。

④ 森林学習館事業部門

森林学習館施設の利用者数は、25,385人で前年比91.0%、2,520人減少となりました。

施設利用者数が前年を下回った理由は、宿泊利用者の減少に加え、震災の影響により、停電および節電・省エネ対応営業を余儀なくされたことによるものです。

【施設全体の利用者数推移（過去5年間）】 (単位：人)



| 年 度 | 平成18年度 | 平成19年度 | 平成20年度 | 平成21年度 | 平成22年度 |
|--------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 施設利用者数 | 274,954 | 323,732 | 317,706 | 335,707 | 330,236 |

【会社全体の営業成績推移（過去5年間）】 (単位：千円)

| | 平成18年度 | 平成19年度 | 平成20年度 | 平成21年度 | 平成22年度 |
|----------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 売上高 | 505,642 | 592,979 | 552,051 | 559,153 | 552,297 |
| 売上原価 | 47,246 | 62,283 | 55,902 | 55,899 | 57,107 |
| 販売管理費 | 471,654 | 505,540 | 489,219 | 479,770 | 481,774 |
| (内減価償却費) | (7,210) | (5,399) | (4,030) | (2,850) | (2,717) |
| 営業損益 | -13,258 | 25,156 | 6,930 | 23,484 | 13,416 |
| 営業外損益 | 4,548 | 4,869 | 5,020 | 4,912 | 4,239 |
| 経常損益 | -8,710 | 30,025 | 11,950 | 28,396 | 17,655 |
| 特別損益 | 0 | -1,792 | 0 | -16 | -78 |
| (内補助金収入) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 法人税等充当額 | 1,906 | 9,895 | 5,501 | 13,887 | 8,023 |
| 当期純損益 | -10,616 | 18,338 | 6,449 | 14,493 | 9,554 |

※ 平成18年度 暖冬積雪不足により損失決算となった。(スキー場リフト稼動2日間)

平成20年度 原油価格の高騰に伴い、光熱水費が増加し、減益となった。

平成21年度 新規事業の獲得推進により、増益となった。

【施設の営業開始等経過】

| | |
|---------------------|---------------------------|
| (7) クアドーム ザ・ブーン | 平成 3年 8月29日営業開始 (クアドーム事業) |
| (イ) 屋外温泉25mプール・露天風呂 | 平成 4年 4月26日増 設 (クアドーム事業) |
| (ウ) 太平山スキー場 オーパス | 平成 4年12月20日営業開始 (スキー事業) |
| (エ) 100万ドル・ハミングコース | 平成 5年12月19日改 修 (スキー事業) |
| (オ) 畳敷和室2室・畳敷広間1室 | 平成 6年 8月22日増 設 (クアドーム事業) |
| (カ) テニスの森・オートキャンプ場 | 平成 6年 8月 1日営業開始 (公園事業) |
| (キ) 展望風呂付大広間 | 平成 9年 4月25日増 設 (クアドーム事業) |
| (ク) トレーラーハウス | 平成 9年 4月25日営業開始 (公園事業) |
| (ケ) 森林学習館 木こりの宿 | 昭和63年 4月 1日営業開始 (森林学習館事業) |
| | 平成 9年 4月 1日受託開始 (森林学習館事業) |
| (コ) オートキャンプ場 | 平成11年 4月27日営業開始 (公園事業) |
| (ク) 新オートキャンプ場 | 平成11年 7月31日増 設 (公園事業) |
| (シ) 花 公 園 | 平成12年 4月20日一部開設 (公園事業) |
| | 平成20年 7月24日開 設 (公園事業) |
| (ス) グラウンド・ゴルフ場 | 平成15年11月 1日営業開始 (公園事業) |

(2) 決算の状況

貸借対照表

平成23年3月31日

(単位：円)

| 資 産 の 部 | | 負 債 の 部 | |
|------------|-------------|------------|---------------|
| 科 目 | 金 額 | 科 目 | 金 額 |
| 【流動資産】 | 80,772,214 | 【流動負債】 | 33,342,693 |
| 現金及び預金 | 50,975,160 | 買掛金 | 1,648,917 |
| 売掛金 | 299,840 | 一年以内長期借入金 | 12,000,000 |
| 商品 | 3,991,441 | 未払消費税等 | 2,685,500 |
| 貯蔵品 | 265,603 | 未払金 | 14,830,948 |
| 立替金 | 41,983 | 仮受金 | 138,000 |
| 未収入金 | 24,991,487 | 預り金 | 960,428 |
| 仮払金 | 206,700 | 未払法人税等 | 1,078,900 |
| 【固定資産】 | 9,289,600 | 【固定負債】 | 156,000,000 |
| (有形固定資産) | (7,745,697) | 長期借入金 | 156,000,000 |
| 建物附属設備 | 356,299 | 負債の部計 | 189,342,693 |
| 構築物 | 194,712 | | |
| 車両運搬具 | 4,671,382 | | |
| 工具器具備品 | 2,107,800 | | |
| 一括償却資産 | 415,504 | 純資産の部 | |
| (無形固定資産) | (1,214,953) | 【株主資本】 | △ 99,280,879 |
| 電話加入権 | 1,214,953 | 【資本金】 | 464,000,000 |
| (投資その他の資産) | (328,950) | 【利益剰余金】 | △ 563,280,879 |
| 出資金 | 100,000 | (その他利益剰余金) | △ 563,280,879 |
| 預託金 | 138,950 | 繰越利益剰余金 | △ 563,280,879 |
| 保証金 | 90,000 | (うち当期純利益) | 9,554,293 |
| 資産の部計 | 90,061,814 | 純資産の部計 | △ 99,280,879 |
| | | 負債・純資産の部計 | 90,061,814 |

損益計算書

自 平成22年4月 1日

至 平成23年3月31日

(単位：円)

| 科 目 | 金 額 | |
|-----------------------|-------------|-------------|
| 【 売 上 高 】 | | |
| 売 上 高 | 552,297,394 | 552,297,394 |
| 【 売 上 原 価 】 | | |
| 期 首 棚 卸 高 | 4,051,350 | |
| 仕 入 高 | 57,047,518 | |
| 合 計 | 61,098,868 | |
| 期 末 棚 卸 高 | 3,991,441 | 57,107,427 |
| 売 上 総 利 益 | | 495,189,967 |
| 【販売費・一般管理費】 | | 481,774,242 |
| 営 業 利 益 | | 13,415,725 |
| 【 営 業 外 収 益 】 | | |
| 受 取 配 当 金 | 4,000 | |
| 雑 収 入 | 5,148,215 | 5,152,215 |
| 【 営 業 外 費 用 】 | | |
| 支 払 利 息 | 450,000 | |
| 雑 損 失 | 463,103 | 913,103 |
| 経 常 利 益 | | 17,654,837 |
| 【 特 別 損 失 】 | | |
| 固 定 資 産 除 却 損 | 65,586 | |
| 固 定 資 産 売 却 損 | 12,358 | 77,944 |
| 税 引 前 当 期 純 利 益 | | 17,576,893 |
| 法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税 | | 8,022,600 |
| 当 期 純 利 益 | | 9,554,293 |

キャッシュ・フロー計算書

(間接法)

自 平成22年4月 1日

至 平成23年3月31日

(単位：円)

| 項 目 | 金 額 |
|----------------------|-------------|
| I 営業活動によるキャッシュ・フロー | |
| 税引前当期純利益 | 17,576,893 |
| 減価償却費 | 2,716,997 |
| 受取利息及び受取配当金 | -4,000 |
| 支払利息割引料 | 450,000 |
| 有形固定資産売却・除却損 | 77,944 |
| 売掛未収の減少額 | 5,183,901 |
| 棚卸資産の減少額 | 157,413 |
| 買掛未払の増加額 | 258,858 |
| 未払消費税等の減少額 | -1,580,300 |
| その他の増減額 | -1,072,621 |
| (小計) | 23,765,085 |
| 利息及び配当金の受取額 | 4,000 |
| 利息及び割引料の支払額 | -450,000 |
| 法人税等の支払額 | -18,080,400 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 5,238,685 |
| II 投資活動によるキャッシュ・フロー | |
| 有形固定資産の取得による支出 | -4,211,672 |
| 有形固定資産の売却による収入 | -12,358 |
| 無形固定資産の減価償却 | 152,381 |
| その他の増減額 | -8,690 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | -4,080,339 |
| III 財務活動によるキャッシュ・フロー | |
| 長期借入金の返済による支出 | -12,000,000 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | -12,000,000 |
| IV 現金及び預金に係る換算差額 | 0 |
| V 現金及び預金の減少額 | -10,841,654 |
| VI 現金及び預金期首残高 | 61,816,814 |
| VII 現金及び預金期末残高 | 50,975,160 |

株主資本等変動計算書

自 平成 22 年 4 月 1 日
至 平成 23 年 3 月 31 日

(単位：円)

| | 株 主 資 本 | | | | | | 株主資本 合計 | 評価・換算 差額等合計 | 新株予約権 | 純資産 合計 |
|---------|-------------|-------|--------|--------------|--------|------|--------------|----------------|-------|--------------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | | 利益剰余金 | | 自己株式 | | | | |
| | | 資本準備金 | 他資本剰余金 | 利益準備金 | 他利益剰余金 | | | | | |
| 前期末残高 | 464,000,000 | | | -572,835,172 | | | -108,835,172 | | | -108,835,172 |
| 当期変動額 | | | | | | | | | | |
| 当期純利益 | | | | 9,554,293 | | | 9,554,293 | | | 9,554,293 |
| 当期変動額合計 | | | | 9,554,293 | | | 9,554,293 | | | 9,554,293 |
| 当期末残高 | 464,000,000 | | | -563,280,879 | | | -99,280,879 | | | -99,280,879 |

| | 利益剰余金の内訳 | |
|---------|--------------|--------------|
| | 繰越利益剰余金 | 利益剰余金合計 |
| 前期末残高 | -572,835,172 | -572,835,172 |
| 当期変動額 | | |
| 当期純利益 | 9,554,293 | 9,554,293 |
| 当期変動額合計 | 9,554,293 | 9,554,293 |
| 当期末残高 | -563,280,879 | -563,280,879 |

個 別 注 記 表

自 平成 22 年 4 月 1 日

至 平成 23 年 3 月 31 日

I 重要な会計方針に係る事項に関する注記

資産の評価基準及び評価方法

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法
有価証券・・・総平均法による原価法
- (2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法
商品・貯蔵品・・・最終仕入原価法による原価法
- (3) 固定資産の減価償却の方法
有形固定資産・・・定率法
無形固定資産・・・定額法

その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

- (1) リース取引の処理方法
リース物件の所有権が借主に移転するもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっている。
なお、未経過リース料総額は、4,639,630 円となっている。
- (2) 消費税の会計処理
税抜方式で計上している。

II 貸借対照表に関する注記

有形固定資産の減価償却累計額 69,527,779 円

III 株主資本等変動計算書に関する注記

発行済株式の種類及び総数に関する事項

発行済株式

普通株式（発行済株式）

| | | |
|-----------------|---------|---|
| 前期末株式数（発行済普通株式） | 928,000 | 株 |
| 当期末株式数（発行済普通株式） | 928,000 | 株 |

3 平成23年度事業計画の概要

【基本方針】

指定管理者の役割を果たすため、引続き熱意をもって、より効率的な指定管理業務を遂行すると共に太平山リゾート公園施設を広く紹介し、施設の利用促進を図ってまいります。

自主事業については、飲食・売店等事業中心の運営のみならず、造園・土木事業など新規事業の拡大を進め、自主事業比率を高める取組みを行い、収益の確保に努めて参ります。

今年度の方針は、施設利用者数 335,200 人の集客を目標とします。

収支面は、営業収入（施設利用料収入、自主事業収入ならびに受託事業収入）563,131 千円を目標とし、管理経費支出の縮減に努め、経常利益 22,704 千円、法人税等税引後の当期純利益 12,000 千円の確保を目指し、鋭意努力してまいります。

4 平成23年度収支予算の概要

平成23年度収支予算

(単位：円)

| | 科 目 | 金 額 |
|-------|-----------------------|-------------|
| 営業損益 | 【 営 業 収 益 】 | |
| | 売 上 高 | 563,131,000 |
| | 【 営 業 費 用 】 | |
| | 売 上 原 価 | 55,139,000 |
| | 販 売 費 ・ 一 般 管 理 費 | 489,770,000 |
| | 営 業 利 益 | 18,222,000 |
| 営業外損益 | 【 営 業 外 収 入 】 | 5,004,000 |
| | 【 営 業 外 費 用 】 | 522,000 |
| | 営 業 外 利 益 | 4,482,000 |
| | 経 常 利 益 | 22,704,000 |
| | 特 別 損 益 | 0 |
| | 税 引 前 当 期 純 利 益 | 22,704,000 |
| | 法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税 | 10,704,000 |
| | 当 期 純 利 益 | 12,000,000 |